

皆さんは、今日どれだけ「外気」に触れてでしょうか？
朝起きれば部屋の中ですし、お店やレストランに入れば建物の中で、オフィスもビルの中でしょう。そう考えると、「外気」に触れたのは、昼食や買い物に出かける時ではなかったでしょうか。
おそらく、歩いている時はずっと「外気」に触れていたことでしょうか。バスや電車では、少し「外気」から隔てられています。ただし、駅やバス停で待ち合わせをしている時には「外気」に触れていたり、徒歩や自転車でも「外気」に触れていたことでしょうか。

藤井聡（ふじい さとし）
東京工業大学教授。1988年奈良県生、京都大学卒業。フジテレビ「交通バラエティ・日本の歩き方」2003～2004年を監修。JAFMATE「交通百葉箱」2001～2002年に連載。主著「社会的ジレンマの処方箋」

皆さんは、今日どれだけ「外気」に触れてでしょうか？
朝起きれば部屋の中ですし、お店やレストランに入れば建物の中で、オフィスもビルの中でしょう。そう考えると、「外気」に触れたのは、昼食や買い物に出かける時ではなかったでしょうか。
おそらく、歩いている時はずっと「外気」に触れていたことでしょうか。バスや電車では、少し「外気」から隔てられています。ただし、駅やバス停で待ち合わせをしている時には「外気」に触れていたり、徒歩や自転車でも「外気」に触れていたことでしょうか。

「外気」に出る人、出ない人。



かしこい Vol.7 クルマの使い方 藤井 聡

クルマを降りればそこには「外気」がありますが、家やコンビニやレストランでクルマを降りても、歩くのはせいぜい数十秒程度しかないことが多いのではないのでしょうか。
そうなのです。クルマを使っている限り、私たちは、ほとんど「外気」に触れることが無くなってしまっているのです。
「外気」の中には、ひょっこしたら草や花のにおいがあるかも知れません。虫や鳥の音が、聞くともなしに聞こえてくるかも知れません。よく見れば、そこには小さな花がいくつかが咲いているかも知れません。

もちろん、私たちは、季節なんて何も感じなくても、ご飯も食べられますし、仕事も買い物もできるし、映画もテレビも楽しめます。でももし、それだけでは何となくわびしいような、物足りないような感じがするとき、今更にあまり歩いたことのない道を、ゆっくりと歩いてみるのも、わるくないのではないのでしょうか。

～徹底解剖 バスの運転席～

バスの運転席にはたくさんの計器がなっています。乗用車には付いていないボタンもあります。一つ一つ、運転手さんに教えてもらいました。

- 水温計 エンジンを冷やす水の温度計
- 空気圧計 コンプレッサーからエアタンクへの空気の入り具合を表示
- 行き先表示モニター
- 前ドア開閉ボタン
- 後ドア開閉ボタン
- 車内音声案内開始ボタン これを押すと次の停留所などを知らせる音声案内が流れます
- 車内音声案内送りボタン これを押すと、音声案内が一つ進んだり、前に戻ったりします
- 室内照明
- 冷暖房スイッチ
- 速度計
- 油温計 エンジンオイルの温度計
- 「とまります」押しボタンを押すと赤く光ります
- 車椅子ランプのリセット
- 「とまります」ランプのリセット
- 車椅子用固定が使われていると黄色く光ります
- 車体上げ下げボタン 車いす用補助版を出すときに車両全体を最大10cm程度上下させることができます
- 室温調整つまみ
- バックモニター うしろを映す画面
- 3つのミラー
- 左側方ミラー
- 左後方ミラー
- 前の死角用ミラー
- アクセル
- ブレーキ
- 室内履き 運転は土足ではなく、やわらかい室内履きを履きます
- クラッチ
- 左足の足置き
- 「とまります」押しボタンを押すと赤く光ります
- 車椅子ランプのリセット
- ハンドル 直径45cm!
- クラクション
- 「とまります」押しボタンを押すと赤く光ります
- 車椅子用固定が使われていると黄色く光ります
- 正面
- 右
- 右下
- 足元

路面電車みたいなバスが参上

アールデコの発祥の地としても知られる、フランスのナンシー市は人口20万人程度の小さな都市ですが、TVRと呼ばれるシステムを導入しました。このシステムはゴムタイヤトラムとも呼ばれ、路面電車が近代化したライトレール的一种として捉えられています。しかしながら、よくみるとナンバープレートがあり、方向指示器があり、左右に大きなミラーがあり、そしてとどめは、運転席ですが、ハンドルがあります。このTVRは、実は、軌道上も走行するけれど軌道がなくても走行でき、パンタグラフで電気をとってきて走行することもできるけれど、予備用のエンジンがあって、電気がなくても走行できるという、世界に2つとない変り種の乗り物です。バスのように走ることができるので、ここでは「バス」の一種と

おきましょう。
都心部では、軌道があるので、存在感は強く、また軌道上の停留所では、プラットホームにぴったりくっついて停車するため乗り降りも容易です。ゴムタイヤなので、ちょっとした勾配もすいすい昇ります。交通規制上はトラムと書いてあるので、市民感覚としては路面電車なのかもしれません。細かいことにこだわらず、おもしろく、お洒落なものを追求していく余裕は、ちょっと羨ましいところです。
この小さな都市のもうひとつの特徴は、中心市街地に空き店舗がひとつもないということです。おもしろい店を構えたい人が多すぎるくらいです。この活気とおもしろいバス（トラム？）が支えているところも素敵に思えます。



中村 文彦（なかむら ふみひこ）
横浜国立大学大学院工学研究院教授。
東京大学卒業。専門は都市計画、都市交通計画、公共交通政策など

